

インフォメーション

お問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

サポセンスタッフから

若者の「地域のために何かしたい」を応援しています！

サポセンでは、地域機関と連携して、地域で活躍する人を応援しています。今年度サポセンがお手伝いさせていただいたのは、宮城野区中央市民センターの若者社会参画型学習推進事業(※)「まいぶろ・かべしんぶん部」。

市内の大学生・高校生が、地域のイベントや施設取材し、壁新聞を作って地域の魅力を発信しました。サポセンは、企画や講師コーディネートにも関わり、宮城野区中央市民センター職員の皆さんと共に、部員の活躍を見守ってきました。

1月15日(日)、「子ども若者住民参画型事業成果報告会」がせんだいメディアテークにて実施されました。部員たちは、「様々な職業の人に会えて学びになった」、「誰かのために文章で伝える素晴らしさを感じた」など、参加しての自身の変化を話してくれました。「まいぶろ・かべしんぶん部」の活動の様子は、サポセンブログで紹介しています。(黒川)



※若者社会参画型学習推進事業は、若者が地域の様々な人と交流しながら、地域づくりに関わり、学びや成長の機会にすることを目的に、各区中央市民センターで実施されています。

仙台市から

協働によるまちづくりを推進するための
新たな助成制度の構築に向けたモデル事業を募集します

複数の団体が連携して社会的課題の解決やまちの魅力の創造に取り組む事業を募集します。事業費の助成と併せてコンサルティングや必要な専門家の派遣等のサポートを行います。なお、事業の性質上、事業申請の前に事前相談が必要です。詳しくは募集要項をご覧ください。市役所本庁舎1階「市民のへや」、推進課窓口、サポセンで配布する他、ホームページからもダウンロードできます。

URL: <http://www.city.sendai.jp/kyodosuishin/kurashi/manabu/npo/shimin/oshirase/h29model.html>

- 助成金額:助成対象経費の10分の9(一部2分の1。上限300万円)
- 事業期間:平成29年4月上旬から平成30年3月31日まで
- 受付期間:3月3日(金)まで (土・日を除く)

お問い合わせ先、事業申請書等の提出先 仙台市 市民局 協働まちづくり推進部 市民協働推進課(市役所二日町第四仮庁舎(アーバンネット勾当台ビル)2階)
TEL:022-214-8002 FAX:022-211-5986 mail:sim004100@city.sendai.jp

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい/団体を立ち上げたい/組織運営の悩みを解決したい/他の団体や他のセクターと連携したい/自分のスキルを地域や社会に役立てたい...

今月の休館日：2月8日(水)・22日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00
日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ/地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP]<http://www.sapo-sen.jp> [Blog] <http://blog.canpan.info/fukkou/> [Twitter] @sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターや学生記者が、
仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています！

- ▶市民ライター
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/writer>
- ▶情報ボランティア@仙台
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/volunteer16>

- ▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
- ▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート]サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等でQRコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2017年2月1日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集者 菊地 竜生 太田 貴 菅野 祥子 松村 翔子 黒川 夕紀
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと 2

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2017 No.210

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト
在仙台ベトナム学生青年協会(VYSAinSendai) 会長
ファム・ティ・タン・トゥ
Pham Thi Thanh Tu さん (25)

互いの理解を後押しし
異文化交流のかけ橋に

「油と間違えて、みりんを買ってしまいました」と、留学当初を笑顔で振り返ります。漢字に馴染みがなく商品判別するのに苦労しました。また、ベトナムでは当たり前に見られる自転車の二人乗りも、日本ではルール違反。留学生活は、戸惑いの連続でした。

出身はハノイ。2011年9月、ハノイ貿易大学在学中に東北大学へ留学。仙台の街並みと人柄の良さが気に入り、大学院進学には、同大学を選びました。進学後は、互いの文化や言葉を知らないことで生まれる不便さや誤解をなくそうと、VYSAinSendaiの代表として奮闘。得意な英語と日本語を活かし、(公財)仙台観光国際協会と連携しながら、交通ルール、防災について説明する冊子や動画をベトナム語に翻訳。国際交流イベントでは、仙台の人たちに母国の伝統料理や衣装を紹介するだけでなく、留学生とお花見や紅葉狩りなどの日本行事も体験。日本文化に触れることも忘れません。「互いを知ること」の先に、多文化共生の実現を見据えています。

取材・文 市民ライター 生沼未樹

特集
多世代の居場所づくり
「おりざの食卓」がプレオープン

在仙台ベトナム学生青年協会(VYSAinSendai)

Vietnamese Youth and Student Association in Sendai
HP <http://www.vysajp.org/news/chi-hoi/sendai/> MAIL tupam.ftu@gmail.com
VYSAは、日本全国のベトナム人学生・青年が集う団体で14の地域で活動しています。2001年東京で設立。ベトナム人留学生の生活支援や卒業後の就職支援が主な活動。仙台では、ベトナム文化の発信に力を入れます。法務省によると、仙台で暮らす外国人は16年6月時点で11,692人。そのうち1,243人はベトナム人です。近年、先進国以外の国でも大学進学率が上がり、仙台への留学生も急増。異文化共生の仲介役はますます必要となっています。

多世代の居場所づくり 「おりざの食卓」がプレオープン

近年、一人で食事をする「孤食」の子どもが増加傾向にあります。他にも、食事を抜く欠食、栄養の偏った食事など、子どもの「食」に関する課題は多様化しています。その背景には、核家族化、共働きや一人親家庭の増加、貧困などがあります。今回は、子どもの食に関する問題を起点に、地域福祉の向上に挑む「おりざの食卓」の取り組みを紹介します。



子どもが地域の人たちと食卓を囲む

おりざの食卓は、2016年9月、太白区長町にプレオープンした「子ども食堂」です。一般的な「子ども食堂」は、経済的な理由により家庭で十分な食事がとれない子どもに食事を提供する事業ですが、おりざの食卓は、夕食を一人で食べている子どもや一人暮らしの高齢者も対象です。スタッフや学生ボランティアなど、多様な人と食卓を囲むことで、子どもたちの社会性を培うこともできます。食卓を囲むのは毎週木曜日の夕方。運営の中心を担うのは、NPO法人おりざの家です。

理事長の佐藤さんは、20年前に大きく体調を崩し、食生活を改善。周囲の人にも、身体と心の健康のために「食」について考えてもらおうと、自然食や伝統的な行事食の料理教室を開いてきました。2013年に法人化。これまでの経験から「食を正し、生活を正すことは、より良い家庭環境を育むことにつながる」と話し、食を通じて地域にもアプローチしようと奮闘しています。

家庭が抱える課題から生まれたアイデア

おりざの食卓の始まりは、2015年10月から12月に開催された3回連続セミナー「たいはく★元気っこ応援隊」でした。適切な養育環境にない子ども（要保護児童）の数は、太白区が5区の中で最も多く、生活保護を受けている人の割合も上昇し続けています。「離婚や貧困など、母子に関する相談が多い」と、危機感を抱く太白区家庭健康課（以下、区健康課）と仙台市社会福祉協議会太白区事務所（以下、区社協）が、母子に関する様々な課題共有と、その解決策を見出そうと開催しました。地域の児童館や保育園・保育所、民生委員児童委員協議会等の関係者が参加し、情報交換やワークショップを行いました。太白区で主任児童委員を務めている佐藤さんは、1回目のセミナーから参加。2回目のセミナーで、東北福祉大学総合福祉学部講師の村山さんも、まとめ役として加わりました。参加者同士で太白区に必要なことを話し合い、子どもだけでなく、親も立ち寄り悩みを打ち明けられるような「子ども食堂」の事業アイデアが



■連絡先
NPO 法人おりざの家 〒982-0011 仙台市太白区長町1-12-14 TEL/FAX 022-249-1625
生まれました。

2016年1月から毎月1回、事業の具体化に向けて話し合いました。事業の核を担う、おりざの家、東北福祉大学、区健康課、区社協の他、セミナーの参加者や地域の町内会や民生委員、企業、給食支援や学習支援に取り組むNPO等もさまざまな形で参加しています。区健康課も「子育ては地域のみんで支えることが大切」と地域での活動の広がり期待します。

地域全体の福祉力向上をめざして

おりざの食卓の本格的なオープンは、2017年4月。定員20名で木曜日に加え、金曜日にも夕食提供をする予定です。子どもの貧困や孤食が生まれる原因の解決にも目を向け、さらなる地域との連携強化を目指しています。東北福祉大学の村山さんは「悩みを抱えた人が気軽に集える居場所づくりと、地域内のネットワーク化が大事」と話します。また、区社協主任・CSWの大久保さんは「ニーズの変化にも柔軟に対応できる、地域に根ざした食卓になるよう応援していきたい」と語ります。地域全体の福祉力向上をめざす新たなつながりが芽吹いています。（取材・執筆 大橋年男）

お役立ち本 格差の世界地図

「中央アフリカで生まれた子どもは、南ヨーロッパで生まれた子どもの半分の年数しか生きることができない」。あらゆる「格差」がもたらした、命に関わる問題の一つです。世界では、経済、権力、健康、教育など幾つもの格差問題が生じています。本書は、各分野の研究者や専門家が、格差の原因を様々な視点からデータ化し、可視化。世界と日本の現状を比較しながら、急激に進んだグローバル化と合わせて考えさせられる一冊です。



3.11 追悼、感謝の気持ちを持ち寄る「キャンドルナイト」のお手伝い

活動日時:3月11日(土)午後1時～午後8時 募集締切:2月28日(火)
青葉区の勾当台公園内で、キャンドルナイトを開催します。東日本大震災での多くの支援に対して、感謝を全国に発信し、減災・防災の意識を高める機会です。当日の場内誘導、キャンドル並べ・点火・片づけなどをボランティアを募集します。お問合せ・お申込み:(公社)仙台青年会議所 未来に伝える仙台創造会議 副議長 豊川義仁
MAIL toyokawajapan@yahoo.co.jp TEL 022-222-9788



紙芝居を通じた世代間交流 「仙台長町紙芝居フェスティバル」

仙台長町紙芝居フェスティバルは、子どもからお年寄りまで、幅広い世代と一緒に紙芝居を楽しむ年1回のイベントです。太白区笹谷街道周辺のあるところで紙芝居を上演するのは、仙台市内で活動している市民活動団体。紙芝居の内容は、昔話や長町の歴史を伝えるものも。今年は9月開催予定。詳細はお問合せください。お問合せ 長町まざらいん 仙台長町紙芝居フェスティバル実行委員会 TEL 022-342-1579



▲紙芝居は、昔懐かしい昭和の街頭紙芝居スタイル

あなたも世界も健康になる食事を Table For Two Miyagi University

仙台市内のカフェに協力を得て、定休日に1日だけ自分たちのカフェをオープンする。そんな活動をする大学生たちがいます。団体の名はTable For Two Miyagi University(以下、TFTMYU)。母体は、東京を拠点に、発展途上国の飢餓と先進国の肥満、生活習慣病の解消に取り組むNPO法人Table For Twoです。対象となる定食や食品を購入すると、団体を通じて1食につき20円が途上国の給食代として寄付されます。活動に賛同し、プログラムの普及に取り組む企業や団体が全国にあります。

TFTMYUの発足は2012年。発起人は宮城大学生で、現在、県内外の大学生36名が所属しています。1日限定カフェ企画は、独自のプログラム。寄付はもちろん、メニューには栄養計算された食事が並び、ヘルシーな食生活も提案しています。それぞれが大学で学ぶ専門知識やスキルを活かし、会場との調整や献立の発案、調理、広告デザインなど、すべてを手掛けています。



▲「いらっやいませ!」と揃いのエプロン姿で迎えてくれます。

自慢のメニューは、レシピを代々受け継いできた「ほうじ茶プリン」です。「何十年と続く団体にしたい。先輩方が築いた方針を守りながら、新たな活動も模索していきたいです」。お話を伺った宮城大学2年で代表の後藤明日香さんと、伊藤友香子さんの熱意を感じました。企画は年2回で今回が5回目。次の世代が作るカフェも楽しみです。

■連絡先
Facebook: facebook.com/tftmyu
Twitter: @TFTMYU
HP: http://tftmyu.com/
MAIL: tftmyu@gmail.com